

議 長 続いて、香取議員の一般質問を行います。 (午後1時30分)
1 番香取議員。

1 番 1 番議席、香取でございます。本日は3つのテーマについて質問をいたし
香取議員 ます。通告書に従いまして、まずは簡潔に伺いたいと思います。

1 点目は、「高校支援体制の見直しについて」です。平成24年度に始まった島根中央高校への支援事業は、まもなく令和3年度で10年目を迎えます。この取り組みは全国でも珍しい取り組みですので、当初は手探りな事も多かったかと思えます。しかし一定の期間が経ち、ノウハウも蓄積され成果が見えてきております。一方で課題も明確になってきているのではないのでしょうか。町として何のために高校支援を行うのか、どのような高校支援を行うべきかを改めて考えるべき時にきているのではないかと思います。そこで改めて島根中央高校支援の目的と、現在の支援体制及び今後の方針について伺います。

2 点目は、「荒廃農地対策について」です。農業従事者の高齢化と後継者の不足により、耕作放棄地が増加しています。今後、農業の担い手の更なる減少が見込まれる中、この状態を放置すれば10年後には再生利用が難しい荒廃農地が町内の至る所で見られるようになるのではないのでしょうか。そこで、町内の耕作放棄地の状況と、荒廃農地の発生を予防するための対策について伺います。

そして3点目は、「協奏のまちづくり」の実現方法についてです。住民参画や協働は持続可能なまちづくりに欠かせません。しかし一方で、その実現は簡単なことではございません。行政はもちろん町民や民間事業者が町の現状や課題、危機感、ビジョンを共有し、それぞれが自主的に行動を起こすことが、この実現には不可欠です。野坂町長の掲げる「協奏のまちづくり」の実現に向け、町民や民間事業者に何を期待し、その気運をどのように高めていくのか、その方針を伺います。

以上、3点、どうぞよろしく願いいたします。

議 長 それでは、香取議員の質問のうち1項目めの「高校支援体制の見直しについて」に対する、答弁をお願いいたします。番外瀬上まちづくり推進課長。

番外瀬上ま 香取議員ご質問の1項目め「高校支援体制の見直しについて」お答え
ちづくり推 します。島根中央高校はご承知のとおり、1924年の島根県立川本農蚕
進課長 学校時代から、百年近くの歴史を持つ、本町にとって最も身近な高校であります。また平成19年に川本高校と邑智高校が統合され、その際には、高校存続について多くの町内外の皆様のご努力によって現在に至っていると認識しております。高校を支援する取り組みは、高校後援会事務局を町が受け持つ形で、当初、教育委員会で所管しておりましたが、現在のまちづくり推進

番外瀬上ま
ちづくり推
進課長

課が所管するようになった平成25年度から、高校魅力化コーディネーターを配置し、本格的に高校と一緒にあらゆる活動を展開しております。特に生徒募集につきましては、地元中学校の卒業生が二十数名で推移することから、定員を満たすためには、町外からの生徒にたくさん入学してもらうことが必要ですので、専門業者による動画やパンフレットの作成、通学生徒への助成、町民体育館の屋内練習場への改修、学習交流センター及びシーピーズの開設など、ソフト及びハードの両面から魅力化向上支援に取り組んでおります。議員ご質問の高校支援の目的と現在の支援体制及び今後の方針につきましては、これからの未来の川本を担う人材の育成を図るために、島根中央高校が、川本町で育った子ども達が、卒業まで自宅から通いながら、自分達が自らの夢を実現する力や現代社会を生き抜く上で必要な能力を育成することができる高校としてあり続けることが肝要であります。もしも地域から高校が消えるということになれば、高校生を持つ保護者にとりましては、精神的にも経済的にも大きな負担を生むこととなります。場合によっては、子供の中学校卒業と共に、一家でこの地域を離れることも想定されるなど、本町の移住、定住などを考える際にも大きなマイナス要因となることも危惧されます。高校の存在は、地域にとっても大きな力となっていることは間違いないことであり、引き続き支援をすべきと考えております。そのための支援体制としまして、今年度から新たに高校支援室を新設し、室長の下、高校魅力化コーディネーター5名と共に、後援会業務、生徒募集、寄宿舎運営などを強化いたしております。さらに、町長施政方針で述べましたが、来年度からは男子野球部の監督に復帰されることになった新田^{しんたひとし}均氏に、新たに、町の高校魅力化推進コーディネーターにご就任いただくことといたしました。男女の野球部の活動の一層の魅力化支援に加えて、新田氏が培ってこられた人的ネットワークを、将来を担う人材育成等にも活かせるよう、支援を強化してまいります。今後の方針につきましては、目的に沿った高校を存続させるためには、一定規模の生徒数は確保しなければならないと考えております。しかしながら、川本、美郷、桜江といった周辺地域の中学校生徒数の状況をみますと、仮にそれらの卒業生全員が入学したとしても、入学定員に達しないという深刻な状況であることから、地元も含め県内外から広く入学していただくための更なる魅力化向上支援が必要です。現在、島根中央高校では、高校の魅力化を高めるため、第2次のまちごとキャンパス構想を策定中であり、進路実現に向けた取り組みや部活動、生徒募集などについての取り組みが検討されています。また地域とともにある学校を目指して、地域住民や役場、学校などで構成される高校魅力化コンソーシアムも準備を進めております。町と高校はまさに同じ将来を目指しており、今後も共に協働して努めてまいります。

議 長

ただいまの答弁に対して、質問がありますか。1番香取議員。

1 番
香取議員

島根中央高校については、町内はもとより町外にいる川本高校の出身者からも高い関心が寄せられています。特に高校入試の志願状況が出るこの時期には、よく話題に上がる事も多く、なかには厳しいご意見もたくさん伺います。町でも高校でも改善出来るところは、しっかり改善していく必要があると思っています。一方で生徒達それぞれを見ていると、どの生徒もそれぞれの目標をもって島根中央高校に入学してきて、3年間を過ごしているように私には見えます。これは町内の生徒も町外・県外の生徒も同じです。町内の生徒にとっては、小学校・中学校と9年間、ほとんど同じメンバーで過ごしてきた中、初めて新しい友達と出会う機会ですので、不安も勿論あるでしょうが、期待を持って入学される生徒が多いのではないかと思います。それから県外の生徒もわざわざ外から島根中央高校にやってくるだけあって、部活動をしようですか地域の活動をしてみたいですか、それから今まで勉強はあまり得意でなかったけれども、将来に向かってしっかり勉強したい等の様々な希望を持って入学してきているように感じております。入学してきてそこから3年間を過ごしているように感じます。もちろんみんな頑張ってるからこのままで良いよってというような事ではなくて、課題もあるんですけども、町民の皆さまには遠くから島根中央高校について語るのではなくて、実際に生徒達の様子を見て・知って、出来ればもっと関わって欲しいと思っています。そして町はその高校と地域を繋げるのが町の役割だと思っています。そういう期待を込めて今回取り上げさせていただきました。それで今の答弁ですね、まず目的についてなんですけれども、要約すると高校の存続というのが先ず第一の目的で、そのために生徒数の確保というのが重大だというようなご答弁だったかと思います。生徒数の確保という面では、私はこの高校支援の取り組みは一定の成果はあったと思っています。平成26年度から県外からの入学者が増えております。平成25年度の県外からの生徒は5人だったのに対し、26年度で18人、27年度22人、28年度には34人が県外から入学しております。そしてもちろん県外からだけではなくて、この28年度は定員の90名を超える志願者があった年だと記憶しております。その後も平成31年度までは定員に近い志願者があった事から、令和2年度の入学生から定員が105名になったというのは、記憶に新しいかと思います。県内の中山間地の他の高校が生徒集めに可成り苦戦する中、可成り成果を出していたのではないかと思います。これは中身を見てみると主に男子野球部の人数が増えている事から、男子野球部の生徒集めのためにソフト・ハード共に町が支援を投下してきた結果なのではないかと思っています。一方で地元の生徒とか保護者にとっては、野球の強い高校というのだけが魅力になるかという、必ずしも全ての生徒、子ども達や保護者にとって野球の強い高校が行きたいというわけではないのではないかと私は思っています。地域住民にとっても、もちろん野球は応援するところではあるんですけども、それだけでは地域の高校というふうには、なかなか成りにくいというところもあるのではないかと思っています。本来であ

1 番
香取議員

ればですね、野球を目玉にして生徒を確保している傍らで、地元の生徒をはじめとする多様な生徒にとって魅力のある行きたいと思う高校になるように支援を進めてくるべきであったと思うんですけども、それがなかなか間に合っていないのが昨年、今年と志願者数が減少している要因ではないかなと私は考えております。そこで今後は、先ほどの答弁にもありましたように、様々な魅力・進路ですとか部活動についても魅力向上のための取り組みをしていただくべきだと思っております。そこで、ご質問なんですけれども、魅力向上と言いましても、なかなかぼんやりとした言葉ではありますけれども、活かすべき島根中央高校の特徴ですとか、魅力・良いところというのは、どのような部分を活かしていこうとお考えかを伺います。

議 長

番外瀬上まちづくり推進課長。

番外瀬上ま
ちづくり推
進課長

島根中央高校の魅力というところで、私の方で活かすというか自分で思っている魅力につきましてちょっと話をすると、現在、部活動に非常に参加している子どもが多くございます。生徒さんの内の9割ぐらいは部活に参加しているという事で、学校自体は活気があるというところが一つあるのかなと。それからしまね留学等、県内外から子どもが集まっておられますので、在校生の内234名、今年は居られますけれども、その内の107の中学校から来ているという事で、非常にそういう出身中学校が多いといったところで、そういった中でいろいろと生徒同士がいろんな価値感に触れたりするっていう事的作用性いうのも生まれるのかなというところは非常に大きいのかなと思っております。あとは生徒の数が少ない、都市部に比べると少ない学校でありますので、そういったところでいくと、教員からすると生徒の顔と名前が一致したり生活も分かるというところで、そういった個別指導が行き届きやすいというところも中央高校の魅力というか、良いところかなというふうに思っております。それで先ほどの今後伸ばしていくところっていう事でございますが、先ほど中央高校は今新たにまちごとキャンパス構想っていうのを作っていて、この間、立ち上げました。第二次になる訳ですけども、第一次の5年前の時には、どちらかという生徒募集の方が大きな主になっていたのかなという取り組みであったかと思えます。この度、第二次のキャンパス構想を策定するにあたって、町の方も一緒に総合計画の策定もありましたので、いろんな提言をしながらそういった魅力化向上というところのいろいろな検討を進めております。そういった中では、やはり先ずいで、子ども達になりたい自分になれるような、そういった選択肢が出来る学校になるべきだということで、学習面につきましても新しいコースというのはなかなかあれなんですけれども、中の形を変える事で進学ゼミ等に力を入れていくとか、そういったところでやはり学力を伸ばしていく中で、やっていくというのも考えておられます。一方で、やはり部活動を多くやって活気のある学校というのも活かしておりますので、やはり今の部活の数っていうのも維持し

番外瀬上ま
ちづくり推
進課長

ながら、いろんな子ども達の目的が達成できるようなところっていうのも、一つの強みとして活かしていければというような感じで思っております。以上です。

議 長

はい、1 番香取議員。

1 番
香取議員

そうですね、部活動ですとか、あと多様な中学から来ているところ、それから小規模である点など活かすべきところはあると思いますので、そこを上手くPRしていただきたいと思います。中でもですね、カギになるのは多様性の部分も可成りPRできるのではないかなと私は思っています。先ほどの答弁でございましたように107の中学校から来ていますので、育ってきた環境も本当に様々ですし、これは良い面も悪い面もありますが、学力も様々、考え方も体力なんかも本当に多様な生徒が集まっています。町内の地元の生徒からすると、町内に居ながら、こういう多様性を体感できるというのは、可成りメリットの大きいところなのではないかと思っています。県外の生徒達、県外から来る生徒達は地域にたいへん関心を持っている子ども達もおりますし、或いは勉強についても可成り頑張ろうという意欲のある子が多いように感じています。私も高校の進学ゼミをお手伝いさせていただいているんですけども、進学ゼミなんかも地元の生徒よりも現在は県外或いは町外からの生徒が多い、町外からの生徒が殆どというような状況になっておりますので、こういう子ども達の存在が地元の子ども達にも良い刺激になるのではないかと思っています。一方で勿論ですね、多様であるからこそなかなか難しいところもあるとは思いますが。摩擦も勿論、今まで育ってきた環境が違うんですから考え方も違うので、喧嘩というか話がなかなか通じなかったり。或いは地元の生徒から見たら、突然、外から来た関西弁をしゃべる同級生は怖いかも知れません。ただそういう多様性の難しさのある中で、交わっていく事が視野が広がるここにも繋がっていくと思うので、そういう多様な部分を勉強・部活動、或いは地域活動など多様な選択肢をサポートできるような体制を、これは学校では高校では出来ないことですので、そこを町がサポートしていくべきなのではないかなと思っています。ここまで目的というすごく大きな括りのところを話してきたんですけども、ここからは以上を踏まえて町が、川本町として行うべき個別の支援について少しお話を進めていきたいと思っています。学力向上については、高校の先生方が正直に言ってプロフェッショナルだと思っていますので、学力向上についてはある程度、先生達にお任せした上で、町としては先生方がそちらに専念できるように、それ以外の分野で先ほどの目的に沿った支援をすべきだと思っています。先ほどの答弁にもあったように現在の支援体制では、人的支援としてコーディネーターをたくさん配置していると思います。現在5名、6名ですかね、やっておられると思いますが、その具体的な業務についてご説明いただけますでしょうか。

議 長	番外瀬上まちづくり推進課長。
番外瀬上まちづくり推進課長	<p>コーディネーターについてでございますが、先ほどすみません答弁で5人と答えましたけれども、6人でございます。失礼いたしました。6名中1人につきましては、主にこれは生徒募集を担当するコーディネーターがおります。それと、ふるさと学ですとか、まちごとキャンパスの学習の支援をするコーディネーターが1名。それから地域活動としまして社会教育との連携を図るといったところのものですとか、高校と大学の連携といった高大連携を担当するというコーディネーターが1人。あとシーピースと学習交流センター、それぞれの寮の方で生徒の自治が出来るようにですとか、困りごとや悩み事のサポートをするといったコーディネーターが、それぞれの施設に1名ずつ。それから先ほど申したもう一人が部活動の魅力化を図るところで、女子硬式野球部の監督の方を雇用しているというところでございます。それぞれのコーディネーターにつきましては、地域おこしが3名、それから集落支援員が3名という事で、そういった財源を活用しながら活動していただいているというところでございます。以上です。</p>
議 長	1 番香取議員。
1 番香取議員	<p>6人の体制という事で手厚くやっておられるかと思えます。個々の活動について細かく見ていきたいんですけれども、まず1つ目の生徒募集業務というのは長くやられているかと思えます。先ほど近年の志願者の状況について私からの意見を申し上げましたけれども、生徒募集業務として近年の志願者数の状況をどのように分析しておられるか、そして町として今後どのようにサポートしていくご意向か伺います。</p>
議 長	番外瀬上まちづくり推進課長。
番外瀬上まちづくり推進課長	<p>生徒募集業務という事でございます。生徒募集につきまして、先ほど議員からも近年の生徒の状況ですとか、県外数についての数字を出していただきました。仰るとおりに近年、県外からの生徒数っていうのは、しまね留学が大きく全国的にも定着いたしまして、非常に30人前後という事で安定的になっておるところでございますが、昨年のところにつきましては、その前に倍率が1倍を超えた反動もあったかとは思っておりますけれども、そういった事で入学者数が大きく減ったというところでございます。ただ県外者についてはあまり変わっておりませんので、そういったところをみますと県内の入学生が減ったのかなという分析をしております。そういった原因につきましては、ひとつとしては私立高校への進学というものが大きくあるのかなと思っております。私立高校が学力ですとか部活動といった魅力を押し出す事によって、そこで夢を叶えたいと思う生徒さんが増えている事もあるの</p>

番外瀬上ま
ちづくり推
進課長

かなというところもひとつあるかと思います。あとは、校区外からの入学という事でそういったものも見直しもされたという事で近隣にしている事もあるのかなと思っております。そういったところで県外の生徒さんについては、今年もコロナの影響もあったわけなんですけども、対面で募集は出来ませんでした。おおよそ昨年並みぐらいの入学をしていただけるんじゃないかなと見込みをしております。そういったところで如何に県内を増やしていくかというところが1つ大事なことだと思っておりますので、先ほど申し上げましたけれども、町の総合計画の中でもいろいろ掲げておりますが、高校がキャンパス構想を出しているところに一緒に協働しながら魅力を高めて子ども達に選んでいただける学校を作っていくというのがひとつかなと思っております。それからもう1つとして男子野球部の部員数というのが、ちょっと少なくなりつつあるのかなという感触を持っております。そういった意味では先ほど7人目のコーディネーターとなりますけれども、来年度からは新田さんを監督として迎えられるので、それを集落支援員として雇うというところでお願いをします。そういったところでも生徒募集についても力が入ってくるというふうな事は期待をしているところでございます。以上です。

議 長

1 番香取議員。

1 番
香取議員

仰るとおり県外の生徒は高止まりと言いますか、ある程度のところで止まっておりますので、町内或いは地域の生徒達も、もちろん目的があって私立に行くのは外に出るのはとても良い事だと思うんですけども、こちらで町内に居たい生徒が選択できるような高校になるように、しっかりサポートしてもらいたいなと思っております。それからコーディネーターの話に戻しますが、この他に2人が寮に入って活動しておられ、それから部活動の指導も一人がされているという事でした。それから地域との繋がり関係で、まちキャンやふるさと学についてやられている方と、それから高大連携の方に取り組まれている方が居られますけれども、そこがこれから生徒の在校生の満足度を高める上では、とても重要な役割を果たしてくるのではないかなと思っております。特に地域との繋がりですね、先ほどから何度も申し上げているように県外生を中心に地域に関する関心がたいへん高いです。地元の生徒にとっても県外生と共に地域に出る事で新たな発見があるのではないかなと思っております。そしてですね、今、大学入試がいろいろ変わってきている中で地域での経験が大学入試に直結する部分もございまして。入試問題なんかも見ても例えば最近の今年の島根大学の推薦入試、去年まではAOといていたものが、今年から今年度から総合型選抜というふうに言われていますけれども、総合型選抜なんかはね、例えばこれは島根大学の法文学部ですと、作文と簡単な読解とか表現力のテストと面接で、その3つで合否が決まるようになっています。事前に出す作文なんかはテーマを見てみると、読み上げますと、地域志向レポートなどというものは、地域についてどのよう

1 番
香取議員

な課題があり、どのような解決方法が考えられるか、その解決に向けて自分がどう関わっていくか等、現在考えていることを具体的に文章で記入しなさい等という問題が出ます。これなんかは地域でいろいろ高校3年間活動していると、いくらでも書く事がありますし、それも面接でも可成り活かせるのではないかと思うんですね、という意味で地域に関するサポートをするというのは、地元の子にも外からの子にも必要な事なのではないかと思っています。加えてですね、地域住民にとっても在校生と今なかなか関わる機会がない中で、関わりがあれば、それぞれ特定の子どもの顔と名前が分かれば応援してあげたくなる気持ちも更に高まる事だと思います。ですので、在校生の満足度を上げるためにも地元の生徒に安心して通ってもらうためにも、地域とのコミュニケーションが不可欠で且つ、これは外から来ている高校の先生方にはなかなか出来ない事ですので、町としてしっかりサポートしていただきたいと思っています。そこでちょっと先ほどのコーディネーターの事で、具体的にどのような活動をしておられるのかを把握している範囲でお答えいただければと思うんですけども、まちキャンやふるさと学の方とあと高大連携の方はどういうお仕事をされておられますでしょうか。

議 長

番外瀬上まちづくり推進課長。

番外瀬上ま
ちづくり推
進課長

まちごとキャンパス学習とかそういったところにつきましては、なかなか先ほど仰ったように地元ではない先生方からすると、そういった地域でいろいろ事をするのは難しいというか、相手が分からないことがいろいろあるかと思っています。そういったところでこのコーディネーターが間に入りまして、学校と地域を繋ぐ役割というのも正しくしているというところが一つの役割となっております。もう1つの方の高大連携というか、社会教育との連携につきましては、いろんな公民館活動ですとか、そういったところへ高校生と一緒に参画できるっていったところの窓口として、そういった地域を繋ぐ役ってところで活躍をいただいているというところでございます。

議 長

1 番香取議員。

1 番
香取議員

その動きがたいへん重要だと思うので、決まった事をやるだけにならないように、先生のサポートも重要なんですけども、しっかりどういう事が必要かを考えて動いていただけるようにしてもらえればなと思っています。それからコーディネーターの配置についてなんですけれども、2019年に文部科学省が報告書を出しておりまして、高校と地域を繋ぐ人材の在り方に関する研究会というところの報告書なんですけれども、ここでコーディネーターの役割なんか分析というか整理されております。ちょっと読み上げますとですね、コーディネート機能というのが高校と地域を繋ぐ人材が必要ですよという文脈で、どのような人材が必要かというところで3つ。高校

1 番
香取議員

から地域に働きかけるコーディネート機能。地域住民との関係を築きながら地域と高校を繋ぐコーディネート機能。高校と地域の協働体制におけるコーディネート機能という3つに分かれておりまして、それぞれについてマネージャー・プレーヤー・サポーターというような整理をすると分かり易いですよというのが書いてあるんですね。マネージャーというのは、課題を設定して解決の枠組みを整えて全体を統括する人。プレーヤーっていうのが、設定された課題に対して計画を立案・実行・改善する。サポーターは、より現場で現場に寄り添いながら計画の実現を支援するような役割ですよというのが言われております。私なりに現在の中央高校のコーディネーターの様子と、この役割等を見てみると、どれもどの域にも満遍なくおいてはあるんですが、どの分野もマネージャー的な役割をする方が弱いような気がしておりますので、こういうのも含めて国でも島根県で始まったものが国でも考えられるようになっておりますので、改めて引っ張っていくようなマネージャーの部分も強化していただければと思っております。コーディネーターに関しては、このぐらいにしておいてですね、先ほどの答弁であったコンソーシアムの設立が予定されているという事ですので、コンソーシアムの詳細について伺えればと思います。

議 長

番外瀬上まちづくり推進課長。

番外瀬上ま
ちづくり推
進課長

コンソーシアムでございます。先ほどの答弁の中では高校魅力化コンソーシアムという事で、高校が設置をするコンソーシアムについてお話をさせていただきました。このものにつきましては、事務局というものにつきましては高校と、それから高校の後援会、それから魅力化コーディネーター、それからコンソーシアムの報告をいろいろ実際に動かすマネージャーというものを事務局としまして、ワーキング・グループというものを設置して、その中でいろいろと検討を進めていきたいと思っております。このワーキング・グループには学校の関係者でありましたり、社会教育の関係者、あとは部活動の関係者とか地域の方々といった方で、いろいろとその場その場で必要な課題について検討いただければいいところなのかなと思っております。こういった方々と一緒に地域の人とキャンパス構想の実現に向けてですね、一緒に考えていけばというのがワーキング・グループだと思っております。そういったものにつきましては、理事会というものを設けて、その決定をしていくというような流れで考えているところです。こういったこの理事会の方には町長でありますとか、川本・美郷の町長であったりとか、それぞれの教育長とか各PTA会長というところを考えているというところでございます。高校魅力化のコンソーシアムについては以上でございます。

議 長

1 番香取議員。

1 番
香取議員 高校魅力化コンソーシアムについては、県から作るようにというのがきているのではないかと思います。作るのはいいんですけれども、作っただけで作りましたで終わらないように、きちんと機能するものにしていただきたいなと思ってまして、それにはなかなかいろいろ温度差が多い当事者が集まるような形になると思うので、課題ですとか危機感をきちんと共有していただいて、どうもっていききたいかっていうビジョンまできちんと共有できるようにしていただきたいなと思っています。そういった中でコンソーシアムマネージャーという方を置かれるという事で、その方々はコンソーシアムにしっかり関わっていくような方になるのではないかと思います。けれども、これの役割ですとか、どういう形で雇用されるかについて伺えればと思うんですが。

議 長 番外瀬上まちづくり推進課長。

番外瀬上ま
ちづくり推
進課長 コンソーシアムマネージャーにつきましては、実際にいろいろ動いていただくという事で、その人材というのは大事なものになってまいります。今、うちの方では、高校の方にも精通された方、それで地域の方にも精通した方っていうのが一応ベストかなと思っておりまして、そういった方があてがひとつありますので、そういった方といろいろ協働しながらやりたいなと思っています。こういったものを実際に動かすには資金も要りますので、これについては県からの魅力化の補助金を使ってそういったものをやるという事で、この方についても事務局の方で雇用だったと思いますけれども、後援会の方での雇用という形でコンソーシアムマネージャーさんについては、働いてもらうという事を考えております。

議 長 1 番香取議員。

1 番
香取議員 それは勤務形態としては常勤になりますかね。

議 長 番外まちづくり推進課長。

番外瀬上ま
ちづくり推
進課長 業務量に応じて常勤か非常勤かということは決まってくるかとは思いますが、今のところにつきましては、先ず以てこのコンソーシアムというのはキャンパス構想実現のための団体というか、そのものになってまいりますので、そちらの方が固まってからという事になります。そういう意味でいうと今のところは常勤というのは非常勤という形で思っているところです。

議 長 1 番香取議員。

1 番
香取議員

この高校と町との連携と言いますか、町から高校への支援となるとなかなか意識の共有がなかなか難しいところがあると思いますので、是非ですね、きちんと引っ張っていきけるような方を、しっかりした形で雇用して作っただけのコンソーシアムにならないように、機能するコンソーシアムにしていただければなと思っております。時間が限られているので、高校については、これで終わりにします。島根中央高校の特徴をきちんと活かしてですね、県立高校ですので、高校がやるべきことと町がやるべきこともあると思います。町にしかできないような支援をきちんとしていただければなと思っております。以上です。

議 長

以上で、1項目めの「高校支援体制の見直しについて」の質問を終了いたします。

々

次に、2項目めの「荒廃農地対策について」に対する、答弁をお願いします。番外湯浅産業振興課長。

番外湯浅産
業振興課長

香取議員の2項目め「荒廃農地対策について」お答えします。本町の農家の所有する耕作放棄地は、直近の2015年の農業センサスによりますと、経営耕作面積に対して22.9%の42haとなっており、そのほか土地持ち非農家の所有する耕作放棄地は50haです。これが増加することは、農村集落の活力が低下し景観も損ね、また鳥獣被害の増加により生産力、生産意欲の低下にも繋がり、農業振興の大きな阻害要因となるものであります。耕地面積の大半を占める田の水稲作付けは、平成30年度の作付け実績137haに対して、令和2年度は121haと、近年、年々減少しており、これも耕作放棄地の増加の要因であると考えられます。発生予防に向けましては、担い手対策の観点から、まず、個別農家から集落営農への転換など、農業生産の効率化や生産体制の強化。そして、コメ及びコメ以外で収益を上げることによる担い手の確保。そして、効率的な営農に向けた農地条件の改善。そして、省力化や高度化など、高齢者や少ない人員でも営農が継続できるように対策が必要です。以前のような体力と経験やカンに頼るだけでは、若い担い手の確保に苦慮しますし、魅力そのものが見い出せなくなってしまいます。また、中山間地域での対策としては、単に農地の有効活用や、再生利用といった考えだけではなく、農地条件面から守るべき農地と、そうでない農地をある程度明らかにしておく必要があります。コメの需要量低下や食料自給率が低迷する一方で、農地の効率的な活用が進み、耕作面積の低下はある程度避けられないという現実もあります。しかしながら、景観や農村活性化の観点から、日本型直接支払制度や人農地プランの推進など、農地維持・有効活用に向けて、地域と連携しながら、必要な対策を進めてまいります。

議 長

ただいまの答弁に対して、質問ありますか。1番香取議員。

1 番
香取議員

農業については、私は素人でございます。ただ司法書士として、農地を含めた土地の相続などの手続に関わる中で、遊休農地を含めて何も作っていない農地が多い事に危機感を抱いております。相続等をする、町外に住んでいる方が土地を相続する事も多いですし、或いは耕作している方も高齢で後継者がいませんというようなお話をよく伺います。現在のところは何とか持ち堪えていて、これから4年、5年ぐらいは現状が守られるかも知れませんが、10年、20年という期間で見ると再生が難しい荒廃農地などが増えるのではないかなというふうに危機感を持っております。そうしますと景観ですとか鳥獣被害、それから防災や防犯の面でも悪い影響がありますし、住みたいと思う人もそういう荒廃している農地を見ると減っていくのではないかなと思っております。長期的にみて荒廃農地を増やさないために、何が出来るかを農業に素人の視点ではございますけれども、基本に立ち帰って考えてみたいと思っております。先ほど荒廃農地の対策として様々な対策を挙げていただきましたが、何か課題を解決するにはその原因というのを分析して、そこに対処していく事が必要だと思っております。そこで先ず荒廃農地の発生原因をどのように分析しておられるか伺います。

議 長

番外湯浅産業振興課長。

番外湯浅産
業振興課長

川本町の農業の中心である水稻生産が先ほど申しましたように米の需給需要の低下、米価の低下、農家の高齢化などにより、農業生産・農業維持が困難になっている事が挙げられます。また、その根底にある事柄といたしましては、産業構造の転換と言いますか、一次産業から二次産業、三次産業へ転換が進み、農家の労働力が他産業へ流出。それから農村から都市部への大量の人口移動、そういった減少がございまして、それ以降、現在でも高齢化・人口の低下という事があります。これは社会構造の変動に応じた構造的減少という事が先ず考えられると思っております。また個別農家を見ますと、規模や農地条件、そういった事によりまして農業収入、それから経費のバランスが取れなくなってきております。集落営農ですとか農業の規模拡大、或いは特色があり付加価値のある農業生産物の生産というものを推進しておりますが、そういう事が出来なければ、なかなか農業の継続は困難というふうに考えております。そのような要因によりまして、先祖伝来の農地を守るという観念では、もはや荒廃農地の発生を防ぐ事が現状においては困難になっているのではないかなというふうに感じております。

議 長

1 番香取議員。

1 番
香取議員

高齢化や労働力不足ですとか、自然的条件などが原因という事で、データでも平成26年に農水省が行っている調査、耕作放棄地に関する意向及び実態調査というのがあるんですが、その荒廃農地の発生原因というの、山

1 番
香取議員 間農業地域においては、今、言われた高齢化労働力不足というのが一番で23%。それから傾斜地等自然的条件が悪いというのが2番目で15%。それから3番目が土地持ち比農家の増加13%となっておりまして、これは本町でも変わりはないのかなというふうに把握しております。そこでそれぞれについて、どう対策していくかというのを考える事になるんですけども、先ず高齢化は仕方ないにしても労働力の不足という点に関しては、担い手確保について考える必要があるかなと思います。それで担い手を集めるためには先ずどのような担い手が欲しいのかというのを具体的に考える必要があります。そのためには先ず本町の農業の特徴というのは、どのようなものなのかを分析する事が必要なのかなと思っております。そこで、本町の農業の特徴ですね、耕作面積ですとか年齢層、所得等について伺います。

議 長 番外湯浅産業振興課長。

番外湯浅産業振興課長 農業センサス2015のデータですと、経営耕地面積184haございまして、そのうち田の傾耕地面積が180haとなっております。このうち転作によりまして、園芸品目を栽培している農地も多くあると思いますが、面積だけを見ると水稻中心とした農業というふうに言えると思います。経営耕地面積ですが、1経営体あたり1.2haです。農地保有合理化が進んできたとはいえ、小規模な農家が多い状況です。その他、高齢化が進んでおります。年齢で言いますと70、75あたりの年齢層が一番のボリュームゾーンになっているという状況でございます。所得につきましてもデータを見ますと1千万以上の農業収入を個人農家で挙げている農家は殆どなくて、農地条件などの状況から大規模な農地集約また効率化の農業とはまだまだ遠い状況というふうになっております。今後の方向性といましては、土地利用型農業では農地流動化、それから耕作条件の整備、先進技術の導入など、そういった効率化が必須となっております。担い手確保ですとか新規就農者対応といましては、比較的小規模で収入が安い野菜など、園芸品目が中心となりますので、遊休農地の有効活用ですとか、そういった方面での抜本的対策とはなりにくいですが、農業生産振興の観点から進めていきたいというふうに考えております。

議 長 1 番香取議員。

1 番
香取議員 今のご説明だと、特徴としては水稻中心で小規模で高齢化が進んでいて低所得というようなご説明だったかと思えます。データも示していただいて、年齢ですと私の手元の農業センサスの資料ですと、これは2015年の農業センサスですと、平均年齢は71.8歳で、これ2030年にどうなるのかという推計も出てるんですが、2030年には平均年齢75歳になるでしょうという推計が出ています。それから所得についても先ほど1千万以上は殆

1 番
香取議員

どいないという事でしたが、173経営体のうち販売無しが19。50万円未満が97。50から100万円が28という事で、100万円より下が83%という事になっています。なかなか農業で稼ぐ、稼ぐ農業というよりも年金のうちの管理費用に補てんしているような状況な方も大勢いるのが現状なのかなというふうに思っています。地区にもよりますけれども本町としては農業を主な産業として、すごく稼いで生計を立ててきたというよりも、いろんな他の事をしながら農業もしてきたという方も多いというような状況なのかなというふうに思っています。担い手の確保というのを考えた時にですね、なかなか稼げないけどきてねっていうのは、なかなか難しいのかなというふうに思っております、もちろんある程度、広い耕作地が確保できる場所ではしっかりと農業で稼いでいただく担い手の方も必要だとは思いますが、農業でしっかりと稼ぐ担い手を確保するというのに加えて、従来の多くの町民がそうであったであろうように、自給的な農家というような形で他の仕事をしながら他の仕事で生計を立てながら、農業のある「農」のある暮らしのようなのを営む人にも多様な担い手として、担い手になってもらうことも必要なのではないかと思っています。農業振興というようなテーマであれば、このような話はしないんですけども、あくまでも耕作放棄地、荒廃農地の発生の防止という観点で担い手の確保というお話をするのであれば、ある程度、農業へのハードルを下げると言いますか、農業を甘く見るなというご批判をいただくのは覚悟しておりますけれども、ある程度広い農地ではしっかりと就農して新規就農でエゴマでもお米でもやっていただく方も来てもらう。その他では農のある暮らしのような事をやりながら、きちんと多様な担い手で農地を守っていくというやり方も必要なのではないかなと思っております。この辺、多様な担い手についてはどのようなお考えをお持ちでしょうか。

議 長

番外産業振興課長。

番外湯浅産
業振興課長

家族経営ですとか、例えば半農半Xだとか兼業しながらの農業経営という事で、そういった方々、多様な担い手というふうに位置づけられるかと思いますが、国の食料・農業・農村基本計画、これが令和2年度に改定されたもので言いますと、農村の振興の部分、ここでは地域に多様な関わりを持たれる、都市部から入ってこられる。農村に関わる農業に関わるような方。それから農業の持続的な発展という面で言いますと、それこそ多様な人材で中小の農家、或いは家族経営、そういった方々にも今回の国の計画ではスポットライトを当てているという状況でございますので、地域の実情に応じてそういった方々もいろんな形で農業に関わっていただきたいというふうに考えております。

議 長

はい、1番香取議員。

1 番
香取議員

ちょっと他の農地の在り方に関する関係のお話もしたかったんですが、時間が無いのでここまでにさせていただこうと思います。私はですね、農地を減らせとか農業をあきらめるとか、そういう事を申し上げたいわけではなくて、むしろ中山間地域らしい風景を川本町の特徴として守るべきだと思っております、そのためには無理なく守っていくためにはソフトランディングを目指すような視点も大切だと思った事から、この問題を取り扱わせていただきました。以上です。

議 長

以上で、2 項目めの「荒廃農地対策について」の質問を終了いたします。

々

次に、3 項目めの「協奏のまちづくり」の実現方法について」に対する、答弁をお願いします。番外野坂町長。

番外
野坂町長

香取議員ご質問の3 項目め「協奏のまちづくりの実現方法について」お答えいたします。次期総合計画の基本構想に記載いたしました「協奏のまちづくり」は、目指すまちづくりの実現に向けた様々なプロセスにおいて、私が大切にしたい考え方や姿勢のことを広く表したものであります。次期総合計画の実現に向けましては、まずは、その旗振り役となる役場自らが、部署や組織の壁を越え、共通の目標に向かい一丸となって取り組みを進める必要があります。役場全職員を対象としたビジョンの共有や、個々の能力や経験を最大限に発揮し、目標を達成できる集団へと作り上げていくためのチームビルディングを目的とする勉強会を開催するなど、行政としての組織力の向上に向けた努力を進めてまいります。こうした取り組みの上で、町民の皆さま、事業者の皆さま、各種団体等の皆さまに期待する役割につきまして、これはイメージしていただきやすくするために、基本構想の中に一部、記載をさせていただきました。これは、役場をはじめとする団体自治の力を高めていくことはもちろん、私達のような町においては、地方自治の両輪であります住民自治の可能性に、大いに期待したいという私の思いからであります。すべての関係者が、本町の未来を創り上げる仲間として協奏できるよう、町民の皆さま・事業者の皆さまの対話を重ね、相互理解を育みながら、主体的・前向きにまちづくりに関われる環境づくり、「協奏のまちづくり」を進めてまいります。

議 長

のこり時間が4分となりました。
（「はい」の声あり）1 番香取議員。

1 番
香取議員

残り時間も少ないので、これで終わりにしようと思うんですけども、来年度予定されている川本版小さな拠点づくりですとか、あとは先ほど1 項目の質問で申しあげました島根中央高校魅力化コンソーシアム。それから2 項目の質問でちょっと取り上げられなかったんですが、人・農地・プランの実

1 番
香取議員

質化の話し合いなんかについてもですね、いずれも住民の皆さんが本気できちんとこの問題に関わって、しっかり話し合いをして進めていく事が不可欠だと思っておりましたので、今回、取り上げさせていただきました。住民参画が不可欠なものであるんですけれども、一方で多くの町民にとってはなかなか住民参画っていうのはあまり馴染みのあるものではないと思うんですね、なので皆さん、執行部の皆さんやもちろん他の町村の職員の方々もしっかりと町民の意見を聞く。そして思っている事を町民に伝えるというのをやっていただきたいと思っております、特に座談会なんかも多く開かれると思いますので、それに必要なスキルとして今年度から始まっている社会教育士の育成ですとか、或いは町職員も出来るだけ私みたいなヨソ者が言う事でもないかも知れないですけれども、できるだけ町に出て普段、関わっていない町民の方ともできるだけ関わるようにして、みんなで作っていく町というのを実現していただければと思っております。以上です。

議 長

これで終わってよろしいですか。
（「はい」の声あり）

々

以上で、3項目めの「「協奏のまちづくり」の実現方法について」の質問を終了いたします。

々

これをもちまして、香取議員の一般質問を終了いたします。

々

ここで暫時休憩といたします。

再開は14時40分といたします。

（午後3時28分）